
続 × 3 ・ 一条財閥再建会議

STORM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

続×3・一条財閥再建会議

【Nコード】

N8688F

【作者名】

STORM

【あらすじ】

駿たちの時代から約40年後。錬磨の一条財閥は衰退し、椎名財閥に吸収されかかっていた。そんな中、錬磨の孫、一条命が一族と再建するため、更なる会議を行う。

(前書き)

やたらと会話が早いような気がします。

「・・・今日は珍しいな、十条が来るなんて」
「・・・暇だしな」

本日のメンバー

二条、六条、十条

今まで皆勤だった九条はここでリタイア。
なお、気づかれてはいないが六条も皆勤である。

「この間は株では絶対にのつとれないって話だったよな」

「でしたっけ？カツ丼食ったこと以外覚えてないっす」

「お前何しに来たんだよ」

「あ、それ以外に覚えてました！」

「・・・何を？」

「命さんがロリコンだったってこと」

「覚えてなくていいわ」

「二条、それは本当か？」

「うん、マジ」

「だからお前ら・・・確かにオレは幼女趣味はあるがロリコンをそんなに否定せんでもいいだろ」

「いちおう特殊な趣味だし？」

「貧乳趣味やロリ顔までは許せる。だが、幼女を襲うことは許せん」

妙に頑固な十条だったりする。

「てかさ、なんか花がなくなね？」

「いつも一輪の花があったはずだが・・・まあ、その花も毒を持つ」

ているが」

「花・・・か。九条はいつも来ていたのか？」

「ん、まあこの間まで無欠席だった」

「皆勤だったのにねえ。第二回を休んだオレには関係のない話だ」

「そもそも第一回で置手紙を置いて帰ったから今回が初めての発言した回になるんだな」

「どれも全部つまらない話で終わってたけどな」

「話変えるけど命さん、今日の飯なんですか？」

「また強請る気か、お前は。昼飯持参って言っただろ」

「呼び出しておいてそれはないだろう。ピザでも注文しておけ」

「りょーかいしました、大佐！」

「ちよ、おま、勝手に注文するな！」

「あ、ピザお願いしまーす。サイズはLサイズ。三枚で！」

「Lサイズかよ！？しかも三枚も！！」

「安心しな、オレは美食家だから」

「何を安心すればいいんだ！？」

「「残飯」」

「申し訳ございませんがSサイズを私に追加していただけますか？」

「やはり来るんだな、お前は」

ここで九条が登場。

「皆勤を捨てるのは惜しいと思い、仕方なく来ました」

「別に来なくていいわ」

「いや、女性の登場は小説には重要だと思うぞ？」

「命さんこんなことも分からないんですか？バカですね」

「うるせえ！調子に乗るな！」

「あ、さっきのにSを一枚追加で！」

「コラ、二条。追加するな！」

「大丈夫ですわよ？命さん持ちですから」

「前回も同じこと言ってたよな!？」

「ナイスコンビネーションだね!」

「何がだ!？」

「あら、命さんに突っ込ませることですわよ?」

「前回も来てればこんなコンボが見られたのか。第一回は面白くなかったから来なかったが・・・次回からは来るようにしようか」

十条は毎日に刺激が欲しい人間だったりする。

だからいつも平凡、更に金もある十条は全て金の力で解決でき、毎日がスリルが足りなくて困ってたようだ。

「家でゲームやってるより余裕で楽しいよ」

「そう言えば十条さんってどんなゲームやるんですか?」

二条が十条に問う。

「ん〜、基本的にアクションゲームだな。ひとりでいることが多いから一人プレイの奴ばかりだ」

「RPGはやらないんですか?」

「RPG?おう、やるよ?」

「ちなみに命さんはゲームやりますか?」

「・・・ジジイが普通に送ってくるからな、ゲーム」

「え?どーゆーの?」

「どうせ命さんのことですからエッチなゲームでしょう」

「九条、ピンポイントで突いてくるな。あのクソジジイが送ってくるのは全てエロゲだ。たまにエロゲ以外送ってくるが、それもどうせギャルゲだ」

そこから若干の空白があった。

「・・・二条、お前はどんなゲームやるんだ?命みたいなゲームはやらんだろ?」

「命さんとは違いますよー。やるのはパソコンでMMORPGですかね」

「あ、私もそれならやりますよ。輪廻さんは課金していますか？」
「課金しますよー。金余ってますし。最近はやってるあれですけど」
「やっぱりあれですか！私もなんですよ！勿論課金しますよ」
「そんなに面白いのか？」
「はい、面白いですよ。家にいながら複数プレイですから。そうだ、鉄さんも一緒にやりませんか？」
「じゃあ、そうしようか」
「命さんは？」
「どうせ命さんにはやるお金も時間ありませんよ」
「うるせえ！ネットゲやる金も時間もあるわ！」
「ですが、命さん・・・そのパソコンのOSじゃ・・・できませんよ」
「み、命さんこんな古いOS使ってるんですか！？もう10年以上前のOSじゃないですか！！」
「悪かったな、全てこれで事足りるんだ！遊ぶために進化したOSなんてオレには必要ない！！」
「あ、そうだ。命、OSって何の略だか知ってるか？」
「んなことくらい知ってるわ！椎名学院生だからこのくらい当然だろ。OSはオペレーションシステムだ」
「え、マジで知ってるんすか！？」
「驚きですわ・・・だてにパソコンでエッチなゲームしてるだけありますわ」
「やってねえ。しかも機種はパソコンじゃなくて普通のゲームハードだし」
「そう言えばお前ら、パソコンは最新の奴か？」
「パソコンは新しい機種が出るたび買い替えていますよー」
「私ですわよ。勿論、性能は最高水準の。データの保存は他の記憶媒体に保存していますから、わざわざ入れ替える必要もありませんから」

楽しそうに話す三人に命は立ち入ることができなかった。

命は一応決心して話しかけてみた。

「お前ら・・・それ、厭味か？」

「あら、そうですねよ？」

「え、命さんそんなことも知らなかったの!？」

「厭味以外に何がある？」

「・・・まあ、そうだと思ってたよ。もういや、今日はもうK
ピザの宅配です!！」

「Kピザ」

「おっしや来た!」

「思ったより遅かったですね」

「命、早く金払え」

「どうせKピザだと思ってたよ・・・。」

命は渋々金を支払った。

「ありがとうございました!」

Kピザの宅配は元気に挨拶して帰って行った。

「さっきの方、とてもカツコよかったですわ」

「悔しいがオレもそう思う。確かにいい男だ」

命がそう言った瞬間、周りが黙った。

「ん?どうしたんだ、お前ら。黙々とKピザだけ食べて。話しろよ」

「・・・いやあ、命さんは守備範囲が幼女だけじゃなくて男性にm

「何考えてるんだ、君は」

「命さん、知ってますよね？」

「あ？何を？」

「知らないはずがない」

「知らないきゃおかしい」

「「「しっ・て・る・よ・ね」「」」

「・・・何をだよ」

「いい男とあなたが言った瞬間、私たちは確信しました」

「命がホモだつてことに」

「十条さん、逃げませんか？」

「同感、いつ掘られるか分からん」

「私も同行しますわ」

「あ、ピザはもらつてくから」

「ごちそうさま」

「それではごきげんよう」

物凄い話の嵐に命は何も言えず、黙ってピザを持って逃げる三人を眺めていた。

「オレ、ホモじゃないよな・・・。」

今一度自分を確認してベットに横になった。

「・・・やっぱり今回も気づいてもらえなかった・・・。」

六条は何時になつたら話に入れるのか、心配しながら帰路についた。

(後書き)

未来のOSってどうなってるんでしょね。

MMORPGの名前も考えるのが面倒だったので、手抜きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8688f/>

続×3・一条財閥再建会議

2010年10月8日15時11分発行